

No.675 (改題635号)  
2025年  
10月22日(水)

ひょうご

# 碑

92

物語

室町時代に始まつたと  
される酒造りだが、灘に  
おける酒造りの勃興期は  
「富水」に象徴される良  
質の水が確保できること。  
さらに、住吉川に代表さ  
れる水車を利用した精  
密の技術の発展など、好条件  
がそろっていたこともあ  
つて酒造りが盛んになり、  
神戸市灘区から西宮にか  
けての西郷、御影郷、魚  
崎郷、西宮郷、今津郷の  
いわゆる灘五郷が形成さ  
れた。さらに、灘は船積

え、灘五郷界隈は酒蔵め  
ぐりを楽しむ老若男女で  
賑わっている。

## 灘の酒造専用水道の碑

(神戸市東灘区西岡本)

享保年間(1736年)までの約60年間とされる。

この時期から、酒米の産地が近かつたことや

「富水」に象徴される良質の水が確保できること。

さらに、住吉川に代表される水車を利用した精密技術の発展など、好条件がそろっていたこともあつて酒造りが盛んになり、神戸市灘区から西宮にかけての西郷、御影郷、魚崎郷、西宮郷、今津郷のいわゆる灘五郷が形成された。さらに、灘は船積



「宮水」に象徴される良質の水が確保できる灘五郷ならではの酒造専用水道の完成を記念した碑

# 新社会兵庫



新社会兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎ 078(361)3613 FAX 078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

# 週刊新社会

発行所: 新社会党  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F  
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

## 「核兵器廃絶」の声を挙げる 北区で「原爆と人間」写真展



9回目を迎えた「北区写真展」は被爆80年などに因んで「核兵器廃絶」をテーマに開かれた=10月5日、神戸市北区・すずらんホール

5日の日曜日には「ギャラリートーク」として、全国で活動している高校生平和大使の取り組みの報告が行われた。報告を行ったのは、第25代兵庫県高校生平和大使で現在は神戸女学院大学2年生の松尾美雨さんと、広島で同じく高校生平和大使を務めた関西学院大学1年生の新藤莉々依さんの2人。

松尾さんは、広島と長崎での研修や東京での国會議員との面談、第2回の日曜日には、江戸後期には、江戸の酒需要の8割を供給していた記録も残っている。この記念碑は、酒造専用水道(毎日6千石を供給)の完成を記念したもので、住吉川東側の神戸市水道局低層配水場の敷地内にある。(鍋島)

**【メモ】JR住吉駅から北東へ10分。本山親子遊園の北側。1973年の建立。**

この2年間にイスラエルの攻撃によって亡くなつた人は子ども2万人余りを含む6万7千人を超えた。食料・医薬品などの支援物資もイスラエルによつて妨害され、多くの餓死者が出ているなど人道危機は極度に深刻な状況にある。スタンディングでは、パレスチナ連帯を表す何

10月3日~7日の5日間、神戸市北区鈴蘭台のベルスト3階のすずらんホールで「原爆と人間」写真展が催された。北区では、憲法を生かす北区の会を主体とした実行委員会がつくれられ、毎年、写真展が開催してきた。9回目となる今年は、被爆80年と昨年の日本被団協のノーベル平和賞受賞に因んで「核兵器廃絶」をテーマとした写真展となつた。ヒロシマ、ナガサキの被爆の様子を伝える30枚の写真や絵が会場に展示され、買い物客や電車の利用客などが立ち寄り、熱心に写真を見入る姿が見られた。

## 高校生平和大使の報告も

五福童丸の見学など、平和大使として様々な学習を重ねたことや、ジュニア連盟の国連軍縮会議に参加して世界の人たちと交流した報告が行われた。

平和は、軍事的なことだけではなく、人権や貧困、差別からも見ていく必要があることを学んだい

う。高校生平和大使とし

てたくさんの貴重な体験

をすることで核廃絶への

思いをさうに強くし、大

学生になつた今も活動を

続けていきたいと力強く

締めくくった。

広島県出身の新藤さん

からは、自分が被爆三世

であることと祖母が亡くなつてから知り、いろいろ

な思いを持って核兵器

廃絶の活動に参加してき

たことがまず話された。

高校生平和大使として県

と長崎での研修や東京で

の国會議員との面談、第

2回の日曜日には「ギャラリートーク」として、全国で活動している高校生平和大使の取り組みの報告が行われた。報告を行ったのは、第25代兵庫県高校生平和大使で現在は神戸女学院大学2年生の松尾美雨さんと、広島で同じく高校生平和大使を務めた関西学院大学1年生の新藤莉々依さんの2人。

松尾さんは、広島と長崎での研修や東京での国會議員との面談、第

2回の日曜日には「ギャラリートーク」として、全国で活動している高校生平和大使の取り組みの報告が行われた。報告を行ったのは、第25代兵庫県高校生平和大使で現在は神戸女学院大学2年生の松尾美雨さんと、広島で同じく高校生平和大使を務めた関西学院大学1年生の新藤莉々依さんの2人。

松尾さんは、広島と長崎での研修や東京での国會議員との面談、第

2回の日曜日には「ギャラリートーク」として、全国で活動している高校生平和大使の取り組みの報告が行われた。報告を行ったのは、第25代兵庫県高校生平和大使で現在は神戸女学院大学2年生の松尾美雨さんと、広島で同じく高校生平和大使を務めた関西学院大学1年生の新藤莉々依さんの2人。

松尾さんは、広島と長崎での研修や東京での国議

院との面談、第

2回の日曜日には「ギャラリートーク」として、全国で活動している高校生平和大使の取り組みの報告が行われた。報告を行ったのは、第25代兵庫県高校生平和大使で現在は神



路を建設する計画が着々と進行している。

## 住民の声を全く無視した

## 「播磨臨海地域道路」計画

## 計画撤回へ5地区で住民が運動

し、国への陳情と地元への広報を開始した。しかし、大規模開発優先の土建国家政策に対する国民の批判と計画キャンペーン上の不祥事が発覚していく長く休眠状態が続いていた。

それがアベノミクスの大規模公共事業を推進する「国土強靭化」と「地方創生」の掛け声で計画が復活。兵庫県も関係市町も無批判にこれに便乗した。国土交通省は「優先区域絞り込み」手続きを経て、2020年に近畿地方小委員会では複数のルート案から「内陸・加古川ルート」が選定され、複数のルート案からの絞り込みは該当の市町に委ねられ、その結果が2023年に公表された。

誘致や南海トラフ地震等の防災対策を挙げているが、いずれも取つてつはたような理由のようで、防災対策に至つてはむしろ逆で、軟弱地盤の兵庫南部沿岸は南海トラフ地震が発生すれば高架道路の倒壊は必至で、むしろ逆に混乱を招くことにならうことが予想される。

住宅密集地や中学校を  
切り裂くルート

ルートを見てみると図

のようになり、明石西ICから北に上がり、静かな田園の街がる滔美町を横切

國の庄内を和美田を林七  
り、南下して  
加古川市別府  
町の庄内を

加古川の河口  
通る。その先、  
町の住宅地を  
東播磨道

に新たに橋を  
架け、高砂市

に入り中学校

地を切り裂き、  
松並木の美し

い都市公園を  
全部潰し、工  
場の跡地は達  
篠田連絡道

場の敷地は過  
けでいびつに  
カーブして西

へ。姫路市に  
入つて的形地

区で山にトンネルを穿ち、貴重生物の棲

む里山を削る  
など自然を破  
「播磨



## 「播磨臨海道路」計画のルート図

# 秋の国会で再審法の改正を 10・4に兵庫県民集会

再審法改正をめざす兵庫県民プロジェクトが呼びかけ

「秋の国会で再審法改正」と、弁護士や大学教授らによる「再審法改正をめざす兵庫県民プロジェクト」が呼びかけた

ト相談へセミ  
ご労安センター

冤罪犠牲者の救済と再審法の改正をめざす弁護団や団体からの報告が相次いだ県民集会=10月4日、神戸市中央区  
（菊地）  
「ハラスメント相談にどう向き合うのか」をテーマに高尾奈々弁護士が講演=10月1日、神戸市中央区

ヤマトの配送センターに株式会社チャージから派遣されていた労働者の問題は、チャージの不誠実な対応によって、争議に発展せざるを得なくなっている。ことの発端は、ヤマト社員の無知が原因だ。「手甲ガード」という安全具の装着をめぐって、派遣労働者がソフトタイプのものを装着していたことで、ヤマトの社員から「出禁」(解雇)を通告された。ご存じの通り、「派遣」という働き方は、派遣元には労働者を選定する権利はない。派遣元が派遣先の業務に対して、「適している」と判断して派遣するのであって、派遣先が「この人はいい、この人はアカン」ということはできない。それがなければ、パートやアルバイトなど直接雇用をすればよいのだ。

現に、今回「出禁」を通告された派遣労働者はすでに1年半以上そこで

## 派遣、請負など直接雇用でない労働者問題

いており、問題の安全を装着したのは、このだけではない。  
ヤマトに対して「出禁」は、ヤマトが社員に推奨しているものである。  
「当社に『出禁』を通告された派遣労働者があらためて派遣されることに何の問題もない」との回答がされている。当然のことである。  
こうしたことから、早期解決ができるのではないかと期待していたが、今度は派遣元が勝手に契約を解除し、仕事の紹介もせず、兵糧攻めをしてきたのだ。チャージは、「誰をヤマトに派遣するかは、派遣元に権利がある」とうそぶき、交渉は決裂した。  
ユニオンとして、チャージに対して解雇(登録抹消)による損害補償とヤマトへの再派遣を求めて闘うことを見定した。

